

2025年度(前期)数理学習センタープロジェクト発表会報告書

7月29日(火)学生会館 SAKURAUM3階大講義室Bに於いて、2025年度(前期)名桜大学数理学習センタープロジェクト発表会を開催いたしました。今年度の数理学習センターは、継続チューター9名、新規チューター3名、計12名で対面962名+オンライン利用者の学修支援を行い、その活動報告を行うことができました。

今年初めての取組として、昨年度から健康情報学科の基礎力向上及び学び直し等の企画を練られてきた太田佐栄子副センター長との連携・指導の下、健康情報学科「数学基礎力講座」を開講し、MSLCによる支援を行い、その成果を報告することができました。その中で、担当チューターのきめ細かい指導方針やフィードバックで学修者を激励しつつ取り組んできた熱意と、学生ならではの様々な創意工夫を感じることができました。

特に今年度は、年度当初からリベラルアーツ教育改革を打ち出し、機構長をはじめ、3学習センターの教職員の連携による複数のワーキンググループの活動もあり、去る7月15日には3学習センターの合同発表会も開催されました。リベラルアーツ機構の年度目標を学生との協働で実践できつつある現体制は、正に本学の特色ある教育活動であると言えるでしょう。このような学生団体の交流は半期の学修支援のマネジメントを行う上で互いに良い刺激を受け、益々充実しており学修支援の効果が期待できるものと実感しました。

今回の数理学習センターの活動報告の「MSCの存在意義」「MSLCが届けたい学びのかたち」の報告の中で現されていたと思います。チューターとチューターが互いに成長できる学びの「みえる・つながる・ひろげる」空間、それが本学の学生団体のコンセプトです。多様化する学生の学びの土台づくりに向けて、学生を巻き込み成果を収めることができるということが実感できました。MSLCならではの学修支援の目的とチューターの思いが込められた報告会となりました。

なお本発表会は、チューターの成長には欠かせない行事だと考えています。新規チューターにはポスター作成を通して、学期の活動全体を知る機会を作り、1週間前には、継続チューターが各科目の活動内容、成果と課題のスライドを作成し、MSLC内の発表会を行います。その中からさらに編集を加えて、まとめたものが本発表となります。本番までのチューターの発表準備は、忙しい中でも大きな成長ができる貴重な機会となります。

今回の本発表会には、教職員3名、学生及び卒業生8名(オンライン参加を含む)計11名の参加がありました。

ご多忙の中、本発表会にご参加いただきありがとうございました。今回残念ながら参加できなかった教職員には、後日動画配信を予定しております。今後とも、チューターへの激励や指導助言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。今回の反省を踏まえて来学期は、さらにバージョンアップした活動報告ができるよう努力してまいります。ご理解とご支援ありがとうございました。

<報告資料> 発表の概要をチューターの発表スライドより一部ご紹介いたします。

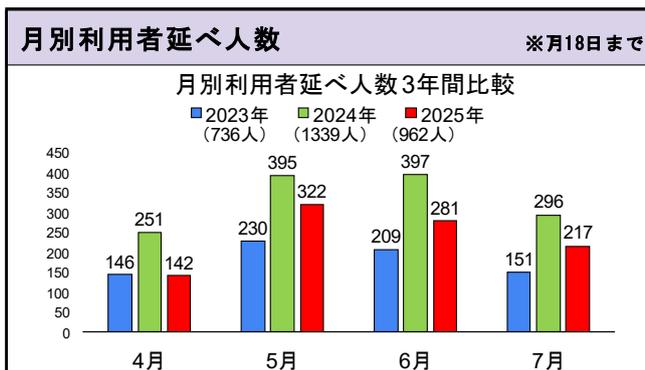


図1 月別述べ利用者数



図2 曜日・次限別利用人数

図1は、3年間の同じ時期の月別利用者数の比較です。2025年度は、2023年度よりは増加しているものの、2024年度より実人数で41人、延べ人数で377人減少しました。その原因の分析結果の報告もありました。

図2は、時限別利用者数です。昨年度はこれまでで最もチューターが多く、過去の実績を上回る利用者数でした。逆に今年は、チューターが12人と少なく、シフトの調整が困難となり、月曜日の1限と最も利用者の多い火曜日の5限もチュータートレーニングのためにMSLCを閉めるということになったことが原因の一つとして挙げられました。加えて最も大きな原因は、統計学基礎の履修者が昨年度の58人から43人に減少したことでした。

MSLCが届ける学びのかたち

<p>MSLCが届けたい学び</p>  <p>知識だけではない なるほどね</p> <p>”理解”を通して、自分の力で学べる学生</p> <p>主体的・自律的な学修者</p>	<p>足場かけと足場外し</p> <p>《足場かけ》 一人ではなし送られない目標や実践に対して、適切な援助を与えて課題達成を可能にする支援の手法</p> <p>《足場外し》 かけた足場を外し、学習者の自律を促す</p> <p>一度の学習で完全に定着するのではなく、繰り返しの学習によって徐々に確実にできるようになる → 毎週の課題や定期的なチュータリングを通して足場かけをする</p>
<p>チューティーの声</p> <p>数学嫌いな私にとって チューター存在はとってもありがたかった！</p> <p>自分の苦手分野や問題の解き方を自己分析することができた点が 学びの成果につながったと考える。 また、苦手を知ることどこを重点的に取り組めば良いか 効率よく学習できたと思う。</p>	<p>チューティーの声</p> <p>分からないところを分からないまま終わらせないで 理解したいという意欲が生まれた</p> <p>答えだけを教えるんじゃなく、 解き方や考え方を一緒に考えてくれた そのため読解力も身につくことができた</p>
<p>まとめ</p> <p>☆ 学びの主役は学生自身 主体的・自律的な学修者を育む 学生が「わかる」を実感し 自分の力で学ぶ経験を支える</p> <p>☆ 学生がともに成長する場所 利用するチューティーだけでなく 学生チューターの自己成長</p> <p>☆ もうひとつの学び場 ・多様なスタート地点や つまづき方に合わせた支援 ・チュータリングを通じた学び → リメディアル教育 → 足場かけと足場外し → 自己調整学習の促進</p> <p>MSLCが届ける学びのかたち</p>	<p>学びをもっと深く、実践的に</p> <p>2025年度前期は 12人のチューターで活動しました！</p>  <p>これからもチューター 全員で学習支援活動を がんばります！</p>

図3 「MSLC が届ける学びのかたち」のスライドの一部



写真1 テスト対策に向けた講座のポスターです。

図3は、少ないチューターでもMSLCの学習支援の目的を見失うことなく、先輩から受け継いだ基本理念を深彫りし、学習支援のクオリティーを高めようと努力を重ねたリーダーの熱い思いが伝わってくる内容でした。

写真1は、新規チューターが作成した主な連携授業の講座のポスターです。3名の新規チューターが来期は、戦力となり、実践力を発揮してくれるものと期待し信じています。受け継がれていくのは、方法だけではなく、チューターのMSLCを大事にする強い思いだと感じた発表会でした。チューターの皆さん、ご苦労様でした。